

伊藤唐木

唐木は原木から買い付け、製材業者に切断してもらい、2年以上かけて乾燥させます。棚板や柱などに切っただけで削り、組み合わせる部分に細工を施し、木材をペーパーで研磨して組み立てる。最後は、漆を塗り、ワックスで艶だして仕上げ。うちは昔のやり方、そのままなんです。そよから、修理の依頼も多いんです。この前も、おばあさんが使っていたという大正時代の家具を持ってこられて、火事で表面が焼けたので修理してほしいと。唐木ものやったら、何でも直せますよ。大事に使ってもらえるんやったら、大切に直させてもらいます。



昔ながらの手作業で作っています
大正時代の調度品の修理もできます

3代目伊藤俊夫さん

紫檀が一番硬く、次に黒檀、花梨の順の硬さ。
紫檀は硬すぎて釘をさすと板が割れるから、
釘が曲がるほどです。



昔の技術をやってますので、
未だに釘は一本も使わないと
作ってます。



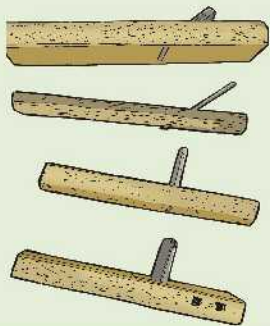
道具の手入れから始め、
父の技を見ながら学びます。

大学3年の時に家業を継ぐことを決めました。子どものころから木に親んでいたのが、自然な選択だったんです。父のもとで修業を始めたけど、見本を渡されるだけ。やり方よりも、自分の体で、手で覚えなあかんのです。最初はペーパーをかけて、磨くことから。そのあとは、かんなど道具の手入れ。そして、父の作業を見ながら、何度も繰り返してするうちに、少しずつ覚えていきました。人にもよりますが、一通りできるようになるには、5年はかかると思います。

4代目伊藤智弘さん



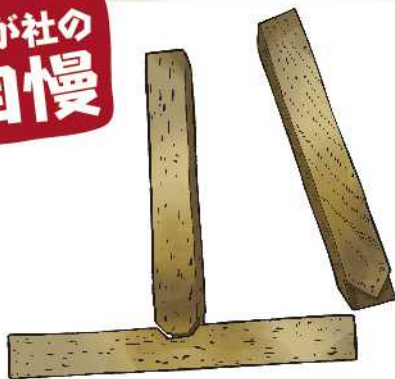
木が弾いのか
スチールが使いたくないのか
木の繊維が強くくっつくのか
直前にメカをかけたのか
……



我が社の
自慢

小学校で組み木を 使って出前授業

小学校で組み木を実際に見せながら指物の技術を子どもたちに披露。組み木と言っても、凹凸や溝があり、それを合わせるとかっちり組み合わせたり、外れない。その不思議さに子どもたちが夢中になると言う。



江戸時代に
長崎に入った唐木が
大阪に集められた
ことで、大阪に
唐木指物の職人が
増えたんですわ。

4代100年以上続く 唐木の調度品を製作

唐木とは、今から1300年前、遣唐使の時代に東南アジアなどから日本にもたらされた紫檀(したん)や黒檀(こくたん)、花梨(かりん)などの木の総称。

伊藤唐木は、ねじや釘をいっさい使わず、唐木を削って形にした部品を組み立てる「指物」を製造。茶箆筒や花台、座敷テーブルなど、高級調度品「大阪唐木指物」を職人の手で作っている。

材料となる木は原木で仕入れ、製材所で切断。それを、自然乾燥させてから削る。木の持つ水分の加減で、そったり曲がったり“木が動く”こともあるので、じっくり乾かすことが大事。そして、木を見て特性をつかみ、それぞれの木に合わせて削りを微妙に変えながら部品に仕上げていく。

加工のサイズはメジャーを使わず、天板を基準にして寸法を合わせ、木に印をつけて、削りながら加減を見る。1本1本を正確に削らなければすき間ができてしまうので、1mmのずれもないようにきちんと合わせるように加工。それこそ、職人ならではのプロの仕事だ。

扉、引き出しなども、すべて手作り。部品を組み合わせて徐々に作り上げながら、バランスを考慮して微妙な調整を加えられるのも、機械ではなく手作業ならではの。そうやってできあがった家具を見れば、卓越した技術に驚くだろう。

伊藤唐木

〒544-0015 大阪市生野区巽南1-8-25
TEL・FAX 06-6752-9412

事業内容/唐木の調度品を作る大阪唐木指物の製造